

富山の企業がインドネシアの 廃棄物問題を解決します。

～一台で廃棄物の破碎・分離から再生資源化が可能に～

国際協力機構（JICA）は2月27日、富山県滑川市の株式会社エムダイヤ（代表取締役森弘吉）による、「エコセパレ分離破碎機製造・現地販売に係る案件化調査」を「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として採択しました。

インドネシア国ジャカルタにおける廃棄物量は6500 t /日を超えると計測されています。このうちほぼ全量の6200 t /日が西ジャワ州ブカシ市のバンタルバゲン最終処分場で埋立て処理されていますが、処理可能量を超える廃棄物量と処理技術不足が原因で野積・投棄が問題となっています。



提案製品



廃タイヤ分離破碎後の資源

このような問題に対して、エムダイヤの提案製品である「エコセパレ分離破碎機」は従来の技術では分離困難であったタイヤや電線ケーブル等の異素材混合物を金属部分、樹脂部分、ゴム部分に破碎・分離することが可能です。本調査は、エコセパレ分離破碎機をインドネシアに導入することで、リサイクルのための再生資源の創出と、廃棄物の減容化の可能性を調査するものです。また、破碎と分離の工程を一台で行うスリム化にも対応しており、手作業工程を削減することで作業員の処理技術不足にも貢献します。

* この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2014年度第2回目は昨年11月に公示を行いました。129件の応募のうち25件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

【本件に関する問い合わせ先】

(独) 国際協力機構北陸支部 (JICA北陸) 松柴

TEL 076-233-5931 e-mail: Matsushiba.Yuka@jica.go.jp